

全日ア連普及第 19-004 号

2019 年 9 月 4 日

加盟団体 御中

(公社) 全日本アーチェリー連盟
普及部長 溝井 利和
(公印 省略)

環境月間（9月）について

平素は全日本アーチェリー連盟の諸事業にご協力賜り厚くお礼申し上げます。公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）は、『オリンピック・ムーブメントを通じ、世界平和運動とスポーツ振興に寄与する目的に基づき、JOC としての環境への取り組みを実践し、環境マネジメントシステムの継続的改善を行うことにより地球環境の保全に貢献する。』としています。この環境基本理念に基づき、本連盟におきましても昨年に引き続き 9 月は環境月間として取り組みを実施いたします。

つきましては、加盟団体におかれましても本趣旨をご理解いただき取り組みの程お願いいたします。

環 境 宣 言

私たちはアーチェリーを楽しみ、

豊かな未来のために地球環境をより良くするよう行動します。

大会キャッチコピー

「来たときよりもキレイに！」

- ・みんなでスポーツの未来を考え、みんなで今の環境を大切にしよう。
- ・エネルギー・資源の節減、ごみの分別、リユースやれることを考えよう。
- ・人・水・空気・土の大切さを考え、環境活動をみんなと協力して行動しよう。
- ・環境を考え、模範・推進となり持続可能性のある活動を実践しよう。
- ・アスリートが良い環境で競技できるようにしよう。
- ・ルールとマナーを順守しアーチェリーを安全に楽しみ環境に貢献しよう。

取り組みの実践例

1、大会事例

「来たときよりもキレイに！」をキャッチコピーにして実践します。

休憩時間等を利用して環境活動のアピールに努めます。

大会のゼッケン用安全ピンの選手持参を奨励します。

環境バナーやポスターの掲示をします。

パンフレットに環境宣言を記載します。

ごみの分別に努めます。

要項等配布物による環境啓発運動を推進します。

得点システム導入して記録速報サイトで確認、記録結果はHP掲載します。

開会式の挨拶や選手宣誓にも環境について盛り込みます。

終了後はみんなで「かたづけよう！」「来たときよりもきれいに！」を実践します。

2、事務の電子化によるペーパーレス化等をより実践します。

3、指導者が、環境運動を率先して行い、活動の持続を考えて実践します。

4、フィールドの大会では自然保全に関する啓発活動を実践します。